

丹満井戸端会議

金春安明金春流八〇世宗家 による「浦嶋」の復曲

本屋 禎子

昔話「浦嶋太郎」は日本人にはなじみ深い。浦嶋伝説は『日本書紀』、『丹後国風土記』、『万葉集』、『御伽草子』、能「鶴亀」と関わりがあり、1300年前前から今に伝わる。日本の昔話である「浦嶋太郎」は、アインシュタインの相対性理論によってその科学的根拠が明らかにされたが、人々はその以前からずっと物語を伝えてきた。

浦嶋太郎が竜宮城にいた時間と故郷の時間についての記述を比べてみると、ほぼ1300年前の万葉集などでは竜宮城では3年いた間に故郷では300年経っていた。ほぼ700年前の奈良絵本では3年が700年とある。手近にある72種類の現代の子ども用絵本のうち半数から5分の2がその数字を明記していない。それは明治以来の国定教科書の影響による。第5期国定教科書（1941—46）

では、架空的な話の筋から受ける不合理を除去してと竜宮と故郷での年月は削られている。

これは意図的なものである。1905年にアインシュタインによって明らかにされた相対性理論が浦嶋太郎に関わるということ自体が教科書作成者に自覚されていないのかもしれない。このように科学的根拠が明らかではない時代から延々と妨害を乗り越えて浦嶋は今に伝えられた。

わが金春流の謡本ではどうであろうか。安明師は金春家伝来小がた手書き本小栞本による復曲を試みて下さった。また間狂言本も紹介して下さい。〔貞享年間大蔵流間狂言本二種（続）わんや書店昭和63年発行〕謡本も間狂言本も竜宮の七日が故郷の七世となっている。能や芸術は未来へメッセージを託すといわれるが、1300年以上前の人々が現代の我々に伝えたかったことを今受け取ることが出来る。

確認がなくとも大事なことを伝え続けよ。いや今確かなことだけが全てではない、自分の代だけでは実現できないことを後の世に実現する子を孫を育て続けよ。